

巻頭言

北海道師範塾「教師の道」

塾頭 吉田 洋一

研究紀要というネーミングには、アカデミックな装いが感じられるように、大学や研究機関の研究者の研究成果の発表の場という印象が強いと思います。

ただ、北海道師範塾「教師の道」は、研究者ではなく教育実践者の集団です。だから、この研究紀要は、研究成果の発表というより、教育実践の振り返りといった方が良いと思っています。

北海道師範塾「教師の道」は、「共に学び、共に成長する」という思いを共有しながら活動しています。しかし、実はこの「共に学び、共に成長する」という事は、口で言う程簡単ではありません。

教師の皆さんは、日々、目の前の課題と向き合って必死に頑張っていると思いますが、忙しい中で頑張れば頑張る程周りが見えなくなってくる、自分の事しか目に入らなくなってしまうという事は避けられません。ですから、時々、自分は今どのような位置にいるのか、何処を向いているのか、何をしようとしているのか、立ち止って振り返る事が大切だと思っています。

研究紀要の原稿をまとめる事は、それまでの自分の教育実践を再構築する事になります。それを活字にして発表するというのは勇気のいる事ですが、そうする事で、自分の振り返りは確かなものになるでしょう。

私達は、常に実践者として現在進行形です。だから、研究紀要で発表している中身は、教育実践の完成型ではありません。それを互いに持ち寄って学び合う、そうする事が教師としての成長の糧となるはずです。

「共に学び、共に成長する」というのは、そういう事だと思っています。

勇気を持って原稿を寄稿してくれた皆さん、また、編集にご苦勞頂いた齊藤満幸先生に感謝いたします。